

# 令和元年度 第1回湖東圏域公共交通活性化協議会総会

開催日 令和元年5月17日（金）10時00分～11時30分

開催場所 彦根勤労福祉会館 4階 大ホール

出席者 別紙参照

## 1 開会

## 2 議事

(1) 「平成31年度事業内容（暫定予算該当期間）」「平成31年度暫定予算」について（資料1、2）

- ・ 平成31年度の事業内容および暫定予算について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

### ● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 今後検討していく内容かもしれないが、高齢者モビリティマネジメント（以下、MM）の事業内容を教えて欲しい。また、観光客の公共交通利用促進の事業内容を教えて欲しい。

### ● 事務局

- ・ 高齢者に対して年度後半にMMを実施することを考えている。夏の小学生を対象としたMM（エコサマー）と同じ内容を想定している。また、それまでは地域に直接説明に行く予定である。
- ・ 観光客に対しては、以前に作成したような多言語に対応したパンフレット（主要な観光地に行ける公共交通の案内）を作成したいと考えている。

### ● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 直接説明とは、出前講座のことを指すのか。

### ● 事務局

- ・ 出前講座で行っている愛のりタクシーの説明と合わせて、公共交通への転換を促す内容を説明していきたい。

### ● 山田会長（彦根市副市長）

- ・ 多言語対応はインバウンドを対象にしているが、一般の観光客（日本人）への対応について補足説明をお願いしたい。

### ● 事務局

- ・ 多言語対応はインバウンドだけではなく、一般の観光客（日本人）も対象としたパンフレットを作成する予定である。また、毎年実施しているキャラ博での公共交通の利用促進も例年通り行っていく。

● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ MMは全ての世代に行う必要がある。高齢者だけでなく、現役世代も対象とし、企業MMの実施や主婦を対象としたMMも実施できると良い。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 高齢者MMは下期に実施するとのことだが、従来も行ってたのか。自動車利用がどのようなリスクを抱えているか（事故など）も合わせて周知や注意喚起すべきである。
- ・ 最近では神戸のバス事故などもあったため、事故事例やその時の状況など情報提供すべきである。

● 事務局

- ・ 高齢者MMは今年初めて実施する事業である。
- ・ 事故事例等の情報も提供するようにする。

● 野本委員（聖泉大学名誉教授）

- ・ 今年度の事業内容に高齢者MMや運転免許証自主返納支援制度が記載されているが、東京都でも自主返納者が年間1,000人を超えた。また、自分が運転する車両のドライブレコーダーを警察に見てもらい危ない事象はないか、意見をもらう積極的な方もいる。
- ・ 運転免許証自主返納支援制度で使用する支援は基本的に無駄な金ではなく、MMや子育て、観光にお金を使うことが望ましい。
- ・ 認知症をなくす自治会の取り組みも参考に事業を行って欲しい。

● 事務局

- ・ 情報提供のあり方も考えて事業を実施していきたい。また、活性化協議会の枠を超えて他の施策と協力しながら行っていきたい。

(2) 「第1号議案 エコサマー（小学生向け）の実施」について（資料3）

- ・ 第1号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、以下の通り質疑応答が行われた。

● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 今年度で3回目と継続的に実施することは良い。
- ・ チラシにてPRするだけでなく、動機付けが大事である。7月の開催までに授業を行うことは難しいが、本来は行った方が良い。
- ・ エコサマーを実施した後に効果検証が大事で、その動機付けを確認した方が良い。

- 事務局
  - ・ 公共交通の役割を教えた上で実施した方が良いことは理解しており、湖東圏域以外にも広げていきたいと考えている。
  - ・ ただし、小学校の授業は年間の授業スケジュールをもとに学校の先生と調整しており、今年度は7月までの開催は難しい。
  
- 轟委員（滋賀県立大学准教授）
  - ・ 効果検証は難しいと思うが、過去に実施した際に定期報告はしていたか。
  
- 事務局
  - ・ 過年度は口頭にて報告していたが、次回の協議会にて過年度も含め報告する予定である。
  
- 轟委員（滋賀県立大学准教授）
  - ・ 大津市の景観審議会では夏休みの宿題として絵を募集しており、この応募された絵をショッピングセンターにて展示を行っている。湖東圏域でも路線バスや鉄道を含めた写生を行うと面白いかもしれない。
  
- 事務局
  - ・ 活性化協議会とは違う組織であるが、びわこ京阪奈線（仮称）鉄道建設期成同盟会では近江鉄道のヘッドマークのデザインを募集したこともあり、ご意見を参考にさせていただく。
  
- 酒井委員（滋賀運輸支局首席運輸規格専門官）
  - ・ MMは各府県や市町で実施されているが、昨年度から対象範囲は増えているか。
  
- 事務局
  - ・ 対象範囲は昨年度と同じで、湖東圏域の路線バスと東近江市のちょこっとバスである。
  
- 酒井委員（滋賀運輸支局首席運輸規格専門官）
  - ・ 今後、対象となる交通手段が増える要素はないか。
  
- 事務局
  - ・ 今のところ、交通手段を増やす予定はない。
  
- 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）
  - ・ 増える要素として、近江鉄道やJR西日本も含めて検討できないか。
  
- 事務局
  - ・ 今年度は難しい。

● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 運賃の問題ではなく、実施できるか否かの前段として、対象範囲・交通手段を検討する上での課題（何が問題で対象範囲を広げられないか）を整理するべきではないか。

● 事務局

- ・ 今年度は難しいと思っているので、来年度以降に検討していきたい。

(3) 「第2号議案 生活交通確保維持改善計画（案）」について（資料4）

- ・ 第2号議案について、事務局より議案書に基づき説明及び報告がなされ、異議無く承認された。

(4) その他

- ・ 全体を通して、以下の通り質疑応答が行われた。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 再編実施計画の P. 23 に近江鉄道の利用促進が挙げられているが、この4月から滋賀県が主体となり近江鉄道に関わる協議会が立ち上がった。
- ・ 個人的には近江鉄道は大事な交通手段と認識しているが、この近江鉄道の協議会での内容を湖東圏域の活性化協議会で報告してはどうか。
- ・ この活性化協議会でも意見をもらい、湖東圏域として要望を出した方が良いのではないか。

● 事務局

- ・ 近江鉄道に関する協議会は近江鉄道、滋賀県、5市5町などで組織されている。
- ・ 湖東圏域での議論も意味があると思っているため、活性化協議会としてどのように取り組むかを議論するために状況を報告するとともに、情報を共有させていただく。

● 野本委員（聖泉大学名誉教授）

- ・ この4月からの路線バス再編により、旧河瀬線など、ハード面・ソフト面が大きく変わっているため、分析を細かく行って欲しい。
- ・ 免許証自主返納者に対して手当拡充や、使い勝手の良い愛のりタクシーにして欲しい。

● 事務局

- ・ 今回の再編では路線バスの廃止代替や運賃施策、多賀町の定時便などを新たに行っている。スタートする際には各地域に周知を行っているが、今後も繰り返し実施していきたい。
- ・ 今年度では再編後の検証を行い、この活性化協議会で報告していきたい。

● 芝委員（滋賀県土木交通部交通戦略課 参事）

- ・ 再編実施計画の P. 23 に鉄道・バス・愛のりタクシーとの乗換利便性向上とある。
- ・ 最近、M a a S という移動サービスが注目されているが、その概念も取り入れて欲しい。

● 事務局

- ・ 路線バスと愛のりタクシーの連携強化やパンフレットでの案内、I C カードの導入も含め、滋賀県に指導を受けながら進めていきたい。

● 轟委員（滋賀県立大学准教授）

- ・ 再編実施計画 P. 22 のバス路線運行本数の増減で「0（ゼロ）」の色分けが2つあるのは何故か。
- ・ P. 22 では路線バスのみだが、廃止代替として愛のりタクシーで補完していることもあり、この再編実施計画に記載の図を修正はできないものの、愛のりタクシーも含めて図を作成した方が良いのではないか。

● 事務局

- ・ 「0（ゼロ）」の色分けが2つあるのは小数点以下の数値も考慮しているため、本当の「0」と四捨五入した「0」の2種類がある。
  - ・ この図に愛のりタクシーの路線や運行本数を反映するなど、今後改善していきたい。
- ・ 次回総会を7月下旬に予定しており、日時は後日調整する旨の連絡があった。

### 3 閉会

以上